

井藤希 令和6年4月度特別作品

今年の梅

井藤希

毎年一月になると、梅の開花が楽しみになる。開花情報を見ながら、親梅の予定を立てたりなどする。ところが、今年は、昨年末に母を家で看取り、年明け早々、私が二度入院するなど、例年になく年末年始となつて、退院後も、親梅のことなど忘れていた。そういう中の二月初め、母の忌明け法要の寺で目にした紅梅が、自分の意識の中に、鮮烈な印象をもつて入ってきたのである。さて、それからは、毎年母を連れて行った景園をはじめ、いろいろな所で、例年以上に梅見をする次第となつた。寒い季節に、たとえ古本になつても春の魁を感じさせる梅の花は、一年の季節の変わり目の中でも特別なものであるように私は思う。この花は、張り詰めた空気の中に季節が進む予感と明るい和みとを皆にもたらしつけてくれるのだ。そして、今年の梅は、その思いを一層強く感じさせるものとなつた。

梅東風や経を唱ふる七七日

お茶室の壁に添うたる梅の影

顔を上げ老いも若きも梅を嗅ぐ

嗅ぐ梅の高さ異なる夫婦かな

上向きに梅吸ふ鳥の一途なる

梅の香の風に向かひて歩きけり

梅潤む雨意の去らざる昼下り

梅林の三時の日差はや翳り

それぞれ根方に雨の梅散りぬ

地に零れ貼り絵となりし梅の花

《作品鑑賞》

すみれ

大変な歳を越されたのですね。気丈な希さんの様子が伺え、かくありたいと老いた我が夫婦の行く末を想い、鑑賞させて頂きました。法要後の紅梅は、それは美しかったです。それがあつての「今年の梅」の作品は、慈愛に満ちた梅が、希さんらしく淡々と詠まれていて好感の持てる句でした。

梅東風や経を唱ふる七七日

早速に大切なお母様を想う映像が浮かび上がって来ます。介護の日々もあつたでしょう。

上向きに梅吸ふ鳥の一途なる

「一途なる」が希さんの俳句だと感じさせてくれます。

梅潤む雨意の去らざる昼下り

感性の豊かさを感じさせられ、私には出てこない語彙の豊かさです。

地に零れ貼り絵となりし梅の花

美しい光景で梅の花を表現され素敵なお句で閉められ、良い作品を見させて頂きました。